

# 芦屋室内合奏団

## 創立20周年記念演奏会

(第19回定期演奏会)

………… プログラム ……………

J. S. バッハ ◎ ブランデンブルグ協奏曲 第3番 G dur BWV 1048

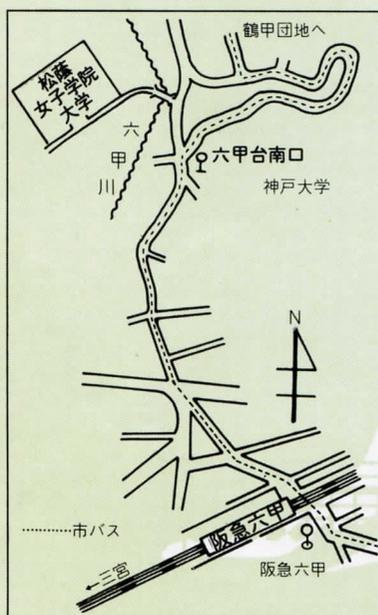
W. A. モーツァルト ◎ クラリネット五重奏曲 a moll K. 581

W. A. モーツァルト ◎ 交響曲 第29番 A dur K. 201

W. A. モーツァルト ◎ ディベルティメント D dur K. 136

指揮／クラリネット：酒井 睦雄

司 会：平島 達司



1985年9月16日(月,休日) 1:00 P.M.

松蔭女子学院大学チャペル

(市バス③⑥系統「六甲台南口」下車)

●主催 / 芦屋室内合奏団

●協賛 / 松蔭女子学院大学

入場料：¥700

芦屋室内合奏団

# 創立20周年記念演奏会

(第19回定期演奏会)

バッハ：ブランデンブルク協奏曲第3番

モーツァルト：クラリネット五重奏曲

モーツァルト：交響曲第29番

モーツァルト：ディベルティメント K 136

指揮 / クラリネット

酒井 睦雄

1985 . 9 . 16 松蔭女子学院大学チャペル

○主催 / 芦屋室内合奏団

○協賛 / 松蔭女子学院大学

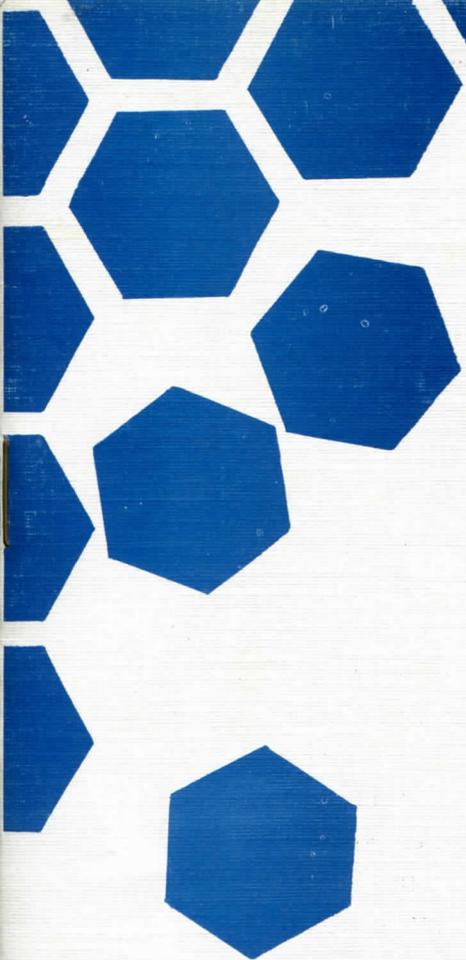
◇芦屋室内合奏団

創立20周年記念演奏会

入場券

1985 . 9 . 16

¥ 700



# 芦屋室内合奏団

創立20周年  
記念演奏会

(第19回定期演奏会)

1985 . 9 . 16(月)

松蔭女子学院大学チャペル

主催／芦屋室内合奏団

協賛／松蔭女子学院大学

## 御挨拶

昭和40年5月、中島良能氏と神戸大学交響楽団OB、学生10数名が集まり、室内合奏団を結成しました。ただ室内楽が好き、というだけのグループの、仕事や学業の合間の練習で、どれだけの音楽活動ができるのか、またいつまでつづけることができるのか、まことに不安一杯の船出でございました。事実、当の中島氏を初め、多くのメンバーが転勤、結婚等で団を去らなければならなくなり、定期演奏会を繰り延べしたこともありました。しかし、幸いにも、団の趣旨に賛同して労を惜しまず尽力して下さった指導者のかたがた、また旧団員に劣らず室内楽を愛する新参加メンバー、皆様の暖かい御援助に支えられ、20年もの活動をつづけることができ、感謝と感慨に耐えません。特にこの10年は、かつての青年達もそれぞれに社会で重要な役割を担うようになり、月2回の練習参加にも、また演奏会にも、より多くの努力を強いられるようになりました。このような困難のなかでの活動は、昭和49年以来、指揮者として一度も休むことなく指導して下さった酒井先生のご努力と、団員一同の音楽への情熱の結晶のたまものに外なりません。バッハ、ヘンデルの300年と符合したこの20周年を、旧団員諸氏との合同・記念演奏会として皆様と共に午後のひとときをたのしみ、新たな発展への出発点とすることができますなら、私と団員の望外の喜びでございます。

昭和60年9月16日

芦屋室内合奏団 団長 橋本宗夫

プログラム

J.S.バッハ ◎ ブランデンブルク協奏曲 第3番 G dur BWV 1048

W.A.モーツァルト ◎ クラリネット五重奏曲 <sup>A dur</sup>~~a moll~~ K.581

W.A.モーツァルト ◎ 交響曲 第29番 A dur K.201

W.A.モーツァルト ◎ デイベルティメント D dur K.136

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

指揮/クラリネット 酒井 睦 雄  
司 会 平 島 達 司

## ----- 演奏曲目について -----

### 1 J. S. バッハ ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV 1048

大バッハがケーテン侯の宮廷楽長であった1721年に、ブランデンブルク侯クリスチャン・ルードヴィヒ公の要請により作曲した6曲の、第3曲である。この6曲は、原譜も、バッハ図書館のリストにも失われていたが、侯の死後、二束三文で売りに出された遺産リストの中からキルンベルガーにより発見された。その後彼の弟子に伝えられ、10歳のメンデルスゾーンは初めて聴いて5ヵ所の禁則箇所を指摘した、という有名なエピソードも生んだ。6曲すべてが異なった楽器編成をとっており、いずれもバッハの円熟期らしい効果的で技法に満ちた作品である。『協奏曲』であっても、もちろん現在のような独奏楽器とオーケストラの協奏の形式ではなく、合奏の中からいくつかの楽器群または音群が対話、対照しつつ発展してゆく形式のものである。バッハ自身は『合奏協奏曲』と記しているが、2番と5番以外はその形式でもない。6曲中、第5番とならんで最も人気のあるのがこの第3番で、弦3部(とピオローネ)、各パート3部の、あたかも3重の三重奏曲といった構成である。全曲は橋渡しの2小節(フリギア技法による終止形、目的不明)をはさんだ2楽章からなる。第1楽章は2拍子のアレグロで、基本動機の重ね合わせから巧みな模様織りを思わせる発展、高揚の後、一転してゆううつな短調で進み、意表をついたドラマティックな再現で明るく終止する。フリギア終止部をへて、第2楽章(第3楽章?)は舞曲形式で、3台のバイオリンによるカノンからはじまり、複雑、巧妙な対位法によって、華やかに展開されてゆく。本日のフリギア終止部では当時の例(おそらく)により他の曲から引用演奏を試みる。

### 2 W. A. モーツァルト クラリネット五重奏曲 <sup>長</sup>イ短調 K. 581

クラリネットの発明は1700年頃と言われるから、そう古い事ではない。モーツァルトの頃は5鍵であり、変口調のものが一般的であったと言うから、今日のそれとはかなり異なった音色や表情を持っていたことであろう。音楽史上、この楽器のための名曲が作曲された時、作曲者の傍に名手がいるのが常である(ブラームス、メンデルスゾーン、シューマン)。モーツァルトもこの唯一のクラリネット五重奏曲を3歳年上の名手シュタットラーのために書いた。表向きは、この楽器についていろいろ教わった礼、と言うことになっているが、本当は経済的な援助への礼らしい。モーツァルトも妻(コンスタンツェ・ウェーバー)も浪費の天才でもあり、相当な収入があったにもかかわらず、前年(1788年)から翌年にかけてファンであった織物業者からだけでも14回、都合2000フロリン以上(当時一般の家賃が月2フロリン)の借金をしており、返済するかわりに作曲して相殺したらしい(K. 563の弦楽トリオ、今ならお釣りがきたことだろう)。外にもこの年の弟子の若奥様からの借金が原因で、モーツァルトの死後、その夫が自殺する、というようなことまで起こっている。今年ヒットした映画のおかげで、『人間モーツァルト』も広く知られるようになったが、こうしたエピソードがなんらこの曲の価値を損なう事がない所が、彼の天才たる所以である。

第1楽章、アレグロ、ソナタ形式 第2楽章、ラルゲット、3部形式 第3楽章、2つの中間部をもつメヌエット 第4楽章、アレグレット、主題と変奏

### 3 W. A. モーツァルト 交響曲 第29番 イ長調 K. 201

モーツァルトは何曲の交響曲を作ったか？ モーツァルト全集には全部で41曲が載せられているが、その中には他人の曲が混じっていたり、彼の作品が落ちていたりし、現在では全部で51曲と言うのが定説である。最近、行方のわからなかった最初期（8歳時）の交響曲が発見され、ファンの話題を呼んでいる。本曲はモーツァルト18歳最後の作品で、ト短調の25番とならんで、前半の傑作に数えられている。弦楽にホルン、オーボエを加えただけの簡素な編成ながら、緊密な構成と共に、後期の交響曲をほうふつとさせる、スケールの大きさももっている。モーツァルト自身、この曲の出来映えに満足し父に自信のほどを書き送っている。第1楽章はpでいきなり第1主題、次いでホ長調の第2主題の後、2つのバイオリンにより別の主題（第3主題と言う人もある）が歌われた後、激しく展開、堂々たるコーダで終結するソナタ形式である。第2楽章はアンダンテで、R・クロイバーが『太陽の暖かさ』と評した弱音バイオリンによる第1主題と、『愛情と幸福』の第2主題、短い展開部、長いコーダ、意表をついた終結部からなる。第3楽章は、ドイツ舞曲風の間奏部をもつメヌエットで、跳ねるようなリズムの主題で始まり、反復終止する。第4楽章は『コン・スピリット』（精神をこめて）と指定されたアレグロで、明快さ、緊密さから『ジュピター（交響曲第41番）の子供』とも呼ばれる（こっちが先だから『親』だと思おうのですが）。はつらつとしたコーダで全曲を終える。

### 4 W. A. モーツァルト ディアベルティメント 二長調 K. 136

多くの大作曲家は早くから名作を残しており、たとえば、シューベルトの『魔王』は18歳、メンデルスゾーンの『真夏の夜の夢』は17歳の作曲である。早くから私達合奏団の『愛奏曲』であった本曲もモーツァルト16歳時の作曲と言うから、恐れ入ってしまう。簡潔な表現の中にすでに大家らしい優美さと機知、構成の美しさをかねそなえた初期の（と言っても35年の彼の生涯では中頃に近いのだが）名作。今日は、創立20周年を祝って全国から参集された旧団員の方々と、合同演奏を行います。曲は、モーツァルトのディアベルティメントの典型に従って、明快・流麗なソナタ形式の第1楽章、優美な変奏曲の第2楽章、ユーモアにとみ軽快な第3楽章からなっている。

## ----- プロフィール -----

### ◎ 芦屋室内合奏団

昭和40年に中島良能を中心とし、神戸大学交響楽団員及びOB14名によって結成、団長橋本宗夫宅を本拠として、年1回の定期演奏会を中心に地味ながら息の長い活動が続けている。延原武春、M. Shoemakerらを指揮に迎えたが、昭和49年から酒井睦雄を指揮者として、コレリからブリテンにいたるまで、古今の室内楽曲を楽しむほか、知名度の低い曲を紹介するなどユニークな活動を行う。会社員、公務員が主であり夫妻で参加のメンバーも多いため、転勤でもあれば1度に2人の団員が去る困難に耐えつつ、月2回の練習を越えた家族的雰囲気も特色である。

### ◎ 指揮者 酒井睦雄

桐朋学園高校音楽科を経て昭和46年桐朋学園大学卒業。その間、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に、指揮を故齊藤秀雄氏、秋山和慶の両氏に師事。昭和46年より相愛オーケストラ、49年より芦屋室内合奏団指揮者、岐阜県交響楽団常任指揮者。昭和52年、ザルツブルクにてO・スイトナー氏に師事、同年、東京にてS・チェリダック氏のゼミナールに参加。現在、相愛大学助教授。

### ◎ 芦屋室内合奏団団員

団長・Vn. 橋本宗夫

Vn. CM 鳥丸安雄

Vn. 藤本恭子  
富田良吉  
福永千江子  
中田久仁子  
三木俊一郎  
信田貞夫  
河田昌子  
尾野寿子  
青木謙一  
松本良子

Vla. 福永精一  
高橋由伸  
河野建一  
青木裕紀子

Vc. 鳥丸直子  
宮崎晴夫  
楠田敏二  
尾野耕造

CB 中田和夫  
大西正之輔

Ob. 大永寿  
野村優

Hn. 和田守弘  
直町寛明

## 芦屋室内合奏団定期演奏会の歩み

### 第1回 1966年3月 芦屋市民会館

コレリ……………クリスマス協奏曲  
 ビバルディ……四季より「春・夏」  
 バッハ……………ブランデンブルグ協奏曲 No.5  
 モーツアルト…ディベルティメント K.136

指揮 中島良能

### 第2回 1967年1月 芦屋市民会館

バッハ……………バイオリン協奏曲 No.2  
 ビバルディ……四季より「秋」  
 レスピーギ……リュートのための古代舞曲とアリア  
 バーバー……………弦楽のためのアダージョ

指揮 中島良能  
 バイオリン 鈴江苑生

### 第3回 1967年7月 芦屋市民会館

ビバルディ……合奏協奏曲 O.P. 3-11  
 バッハ……………ピアノ協奏曲 No.1  
 チャイコフスキー…弦楽のためのセレナード

指揮 中島良能

### 第4回 1968年2月 芦屋市民会館

コレリ……………サラバンド ジーグ バディヌリ  
 バッハ……………オーボエとバイオリンのための協奏曲  
 モーツアルト…オーボエ四重奏曲 K. 370  
 ブリテン……………シンプル・シンフォニー

指揮 宮本政雄

### 第5回 1968年11月 芦屋市民会館

ビバルディ……四季より「冬」  
 ボッケリーニ…チェロ協奏曲  
 モーツアルト…ディベルティメント K. 138

指揮 中島良能

### 第6回 1969年9月 芦屋市民会館

パーセル……………組曲「アプデラザール」  
 パーセル……………トランペットと弦楽のためのソナタ  
 テレマン……………3つのバイオリン、弦楽と通奏低音の  
 ための協奏曲

指揮 延原武春

### 第7回 1971年11月 夙川公民館

ヘンデル……………合奏協奏曲 O.P. 6-12  
 ビバルディ……合奏協奏曲 O.P. 3-12  
 ドボルザーク…弦楽のためのセレナード

指揮 奥田伸吾

### 第8回 1972年11月 芦屋カトリック教会

ビバルディ……調和の靈感 O.P. 3-10  
 ビバルディ……調和の靈感 O.P. 3-3  
 バッハ……………ブランデンブルグ協奏曲 No.3  
 モーツアルト…戴冠ミサ曲

指揮 M. H. Shoemaker

### 第9回 1973年12月 芦屋市民会館

コレリ……………合奏協奏曲 O.P. 6-1  
 グリーグ……………ホルベルグ組曲  
 スーク……………弦楽のためのセレナード O.P. 6

指揮 M. H. Shoemaker

### 第10回 1974年5月 芦屋仏教会館

コレリ……………合奏協奏曲 O.P. 6-7  
 バッハ……………2つのバイオリンのための協奏曲  
 ヘンデル……………合奏協奏曲 O.P. 6-5,9

指揮 M. H. Shoemaker

### 第11回 1975年5月 芦屋仏教会館

パーセル……………組曲「アプデラザール」  
 モーツアルト…ディベルティメント K. 136, K. 138  
 ビバルディ……四季より「春・夏」  
 ヘンデル……………合奏協奏曲 O.P. 6-6

指揮 酒井睦雄  
 バイオリン 曾我部千恵子

### 第12回 1977年6月 芦屋仏教会館

ビバルディ……四季より「秋・冬」  
 テレマン……………組曲 イ短調  
 レスピーギ……リュートのための古代舞曲とアリア  
 バッハ……………組曲 第2番

指揮 酒井睦雄  
 フルート 白井美和子

### 第13回 1978年12月 芦屋仏教会館

コレリ……………合奏協奏曲 O.P. 6-1  
 ヘンデル……………合奏協奏曲 O.P. 6-1  
 モーツアルト…アダージョとフーガ K. 546  
 グリーグ……………ホルベルグ組曲

指揮 酒井睦雄

### 第14回 1979年11月 芦屋仏教会館

ヘンデル……………合奏協奏曲 O.P. 6-3  
 エルガー……………弦楽のためのセレナード O.P. 20  
 ドボルザーク…弦楽のためのセレナード O.P. 22

指揮 酒井睦雄

### 第15回 1980年11月 芦屋仏教会館

モーツアルト…ディベルティメント K. 136  
 ホルスト……………弦楽のための組曲「セントポール」  
 ボッケリーニ…チェロ協奏曲  
 モーツアルト…セレナータ・ノットェルナ K. 239

指揮 酒井睦雄  
 チェロ 斎藤達男

### 第16回 1981年11月 芦屋仏教会館

ビバルディ……合奏協奏曲 O.P. 3-11  
 ヘンデル……………合奏協奏曲 O.P. 6-5  
 バッハ……………プレリュード 短ロ短調  
 コレリ……………合奏協奏曲 O.P. 6-6  
 バルトーク……ジューベンブルグの踊り

指揮 酒井睦雄

### 第17回 1982年11月 松蔭女子学院大学

チャペル  
 モーツアルト…喜遊曲 K. 136  
 モーツアルト…クラリネット五重奏曲 K. 581  
 モーツアルト…喜遊曲 K. 334

クラリネット/指揮 酒井睦雄

### 第18回 1984年11月 松蔭女子学院大学

チャペル  
 テレマン……………組曲「リラ」  
 ハイドン……………自動オルガンのための3つの小品  
 ハイドン……………オルガン協奏曲 第2番  
 ベールマン……クラリネットと弦楽五重奏のためのアダ  
 ージョ

ニールセン……小組曲 O.P. 1  
 レスピーギ……リュートのための古代舞曲とアリア 第3組曲  
 クラリネット/指揮 酒井睦雄  
 オルガン 鈴木雅明